

ボッチャに挑戦！ 全国ボッチャ選抜甲子園オープンの部に出場

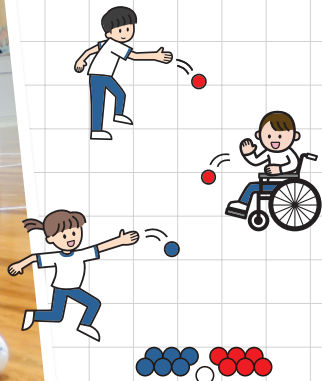
県立南紀はまゆう支援学校では、体育の授業や休憩時間などの時間を活用し、パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」競技に取り組んでいます。ボッチャは、年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、**すべての人が一緒に競い合えるスポーツ**です。

令和7年2月、一般社団法人日本ボッチャ協会主催「ボッチャキャラバンin和歌山」が開催され、同校を会場に東京

パラリンピック日本代表中村拓海選手をはじめとするボッチャ日本代表（火ノ玉JAPAN）選手を迎えた体験授業が行われました。同校の高等部生徒たちは、代表選手の戦術や戦略に身近に触れ、その正確さや力強さに何とも言えない緊張感を味わいました。ボッチャ競技への関心や意欲をより一層高める機会となりました。

こうした中、「全国ボッチャ選抜甲子園」において、本年度から、肢体不自由生徒のみでチームを編成することが難しい場合、肢体不自由のない知的障害生徒とチームを組み、予選に参加できる「オープンの部」が新設されました。

同校では、これを契機に、中学部生徒が**チーム「パーシー」**を結成し、大会への初出場に向けて練習に励んでいます。生徒たちは、戦術を話し合ったり、狙い通りの投球ができた時にはともに喜びあったり、また、うまくいかなかった時にはともに声を掛け合い励まし合ったりと、ボッチャ競技を通じて**他者を思いやる気持ちや主体的に取り組む力**が高まっています。大会への出場が、ともにスポーツに励む選手同士の交流を深める機会となることを期待しています。



輝く！ 紀の国の先生

和歌山県立和歌山さくら支援学校 岩上 実紗先生

今回は、県立和歌山さくら支援学校 岩上実紗先生をご紹介します。児童生徒の自立をめざし個々に合わせた学習を追求する岩上先生の思いを、インタビューを通してお伝えします。



Q 教員になったきっかけは？

こどもの頃、近所の特別支援学校でイベントに参加したり、一緒に遊んだりして、**特別支援学校が身近な存在**でした。働く先生が楽しそうに見えて、教員になりたいと思いました。

Q 教員になってどう思いましたか？

実際は想像していたより大変でした。でも、とても楽しい。時間をかけて指導したことができるようになったときなど、こどもの成長を感じたときにやりがいを感じます。



Q 何か工夫していることは？

授業中は、余計なものが視界に入ってしまうと集中が途切れないように、整理整頓を意識しています。また、指導すべきときはしっかりと指導しつつ、毎日笑顔で過ごせるように楽しい雰囲気づくりを心がけています。

Q こどもたちの「こんなところがかわいい」ところは？



やることすべてに意欲的で楽しもうと取り組んでくれるところ。人懐こくて、**存在がかわいい**。最近では、「マカトンサイン」を覚えてお互いのコミュニケーションが少しずつとれてきています。

Q こどもたちにどんな風に成長してほしいですか？

友達や先生と楽しい思い出を作ってもらいたい。そして、社会に出てからその思い出を糧に、しんどいときも頑張れる大人になってくれたらうれしいです。

Q 今後、力を入れて取り組みたいことはありますか？

自立活動の時間を充実させたいです。個々の状態に合わせた内容の指導で、特別支援教育のミソといえる指導です。これが難しいんですが、**自立活動は、やればやるほどこどもたちが変わっていく**のを実感しています。とても大事だと思うので、今年はもっと頑張りたいです。

きのくに 教育めぐり

印南町教育委員会

印南町は、海と山に囲まれた自然豊かな町です。温暖な気候を活かし、エンドウやミニトマト、スイカ、縁起物の千両などの特産品が生産されています。歴史的には、熊野古道の要所「切目王子」や、かつお節、真妻わさびの発祥の地として知られています。自然、歴史、文化が調和する印南町へ、ぜひお越しください。



教育長挨拶

印南町教育委員会 教育長 平尾 潔司

印南町では、3歳児から中学校卒業までの連続性・系統性のある義務教育12ヶ年事業を進めています。しかし、全国的に少子化の波が押し寄せてくる中で、本町においても、現在4中学校を1校に統合を進め、令和10年4月開校を目指すとともに、将来の小学校と施設一体型小中一貫教育の姿を描きながら高台での造成工事、新設中学校建設に向けた取り組みを進めています。統合のコンセプトは、「安全・安心、一人一人を大切に、印南から世界へ。」として、英語教育、ICT教育、防災教育等を充実させ、「豊かな心・自立心を育む子育て・教育の郷 いなみ」に取り組んで参ります。

印南町教育委員会の令和7年度主な取り組み

1 3歳からの「義務教育12ヶ年事業」の推進

幼児期から中学校卒業までの12年間を一貫した教育として位置づけ、認定こども園・小学校・中学校が連携し、こどもの発達段階に応じた切れ目のない教育を行います。特にこども園では、加配教諭を配置し、これにより、こどもたちが安心して学び、成長していける基盤を整えます。

2 小中学校の給食無償化の継続

印南町ではすべての小・中学生が等しく温かい給食を食べられるよう、自校方式の給食を導入しています。また、経済的な負担を軽減し、保護者が安心して子育てできる環境づくりを目指すため、給食費の無償化を令和6年度から実施しています。



3 英語教育の充実

認定こども園から中学校まで、外国語指導助手（ALT）を2名、こども園にネイティブ講師1名を配置し、英語にふれる機会を豊富に設けています。また、中学3年生の英検3級受験費用を町が支援し、こどもたちの英語学習への意欲を高めていきます。



未来を見据えた学びの場を ～中学校統合の取り組み～

印南町では、町内にある4つの中学校を再編し、令和10年4月には新たな統合中学校を開校する予定です。この新しい学校は、「安全・安心、一人一人を大切に。いなみから世界へ～学校・地域の活気とICT、英語教育の充実による人材の育成～」をコンセプトに、こどもたち一人一人が主体的に学び、仲間とともに成長できる環境を整備していきます。



一人一人に寄り添う教育

統合により学級規模が大きくなることから、生徒一人一人の生活や学力に目を配りながら、個に応じた指導を組織的にを行います。学習の遅れや悩みを抱えるこどもにもきめ細かく対応できるよう、教師の指導力の工夫・改善に取り組みます。また、不登校やいじめのサインを見逃さない体制づくりにも注力し、スクールカウンセラー等の専門職を配置、心のケアも含めた支援を行います。さらに、学習や生活の支援が必要な生徒への対応として、町独自の学習支援員の配置や特別支援教育の充実を進めます。個別の指導計画に基づき、自立と自律を育む教育を実施していきます。



地域とともに歩む学校

新しい学校でも、これまで大切にしてきた地域とのつながりや連携活動はそのままに、地域とともにある学校づくりを進めます。地域の皆さまと共にこどもたちの成長を見守り、支えていける関係を大切にしていきます。

未来の学校施設

統合に伴う新校舎の整備では、以下のような未来を見据えた教育環境を目指します。

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた、柔軟で創造的な学習空間
- 新しい生活様式を踏まえた、健やかな学習・生活空間
- 地域や社会と連携・協働した、ともに創造する共創空間
- こどもたちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境
- 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境

